



No. 36

(関西)共産主義者同盟政治機関紙

編集発行人 平等社

連絡先 大阪市東淀川区

田川通3の16

万建ビル内 平等社

TEL (301) 4555

(但し、5時30分迄)

料金 (今号20円)

オリンピック会期中

10・13 16 大衆的波状斗争に起て!

国際反革命連合の再編成の端的な表現である原子力潜水艦寄港は、当面する日本における階級斗争の直接的焦点である。有形無形の反動の鉄環が、つたつた人民の首をしめつつあるなかで、日本プロレタリアートは、原子力潜水艦斗争をもって、反権力的政治斗争の新時代をきり開かねばならない。

原潜寄港と云う単純な事実のなかに、帝國主義世界の運命とプロレタリア運動の将来にかかわる意味を洞察しなければならぬ。くさびは小さくとも巨木を引き裂く一問題はそれが反動かそれともプロレタリア的政治的伸張か、にあるのだ。

原潜寄港は切迫している

① 原潜寄港はブルジョア反動以外のなにものにもない。ブルジョアジの絶対的実現すべき無難の課題である。政府の「寄港はオリエンチック後」と云うのは、そのもてる政治的、強権的、イデオロギー的の全力量をかけて、一気に実現せんとすること以外のなにものでもない。新ボラリスAMミサイルを積載した原子力潜水艦による西太平洋戦略の急編成の一計画はアム帝によっていそがげられている。

（「朝日」10・1付）
直接の公的暴力をのぞくブルジョア国家の全機関を動員して、諸階級・就中プロレタリアートを政治から離脱させ、オリエンチックに国民として組織する作業が進行している。民族的興奮と遊戯のなかで労働者の政治感覚のマヒを非政治化して今日、ブルジョアジにとって直接の利益である。オリエンチックはプロレタリアートにとってオリ

く過程の実現のためには、戦術が、オリエンチック会期中の波状的の政治的、組織的、イデオロギー的の再武装が要求されている。原潜阻止と云う政治的目標が、佐世保・横須賀（現地）——全国斗争と云う

日韓会談再開の陰謀許すな

③ 原潜寄港が現階級情勢でもつて、すでに「烽火」先号の二論文が詳説した通り、それはなによりも南ヴェトナムに典型的に示される後進諸国民族解放斗争の進展に対する国際反革命戦線の再編成の軍事的なあらわれである。米帝支配の要的地位をもった南ヴェトナムの崩壊の危険を前にして、米帝は日帝をもつとも有力な同盟者として、極東—東南アの危機に対処しようとするのであ

る。南ヴェトナムを始めとする今日の後進諸国は、史上のいかなる植民地危機とも質的に異なる。第二、次大戦後の国際的反動を維持してきた帝國主義のアキレス腱の損傷である。民族

闘争が、オリエンチック会期中の波状的の政治的、組織的、イデオロギー的の再武装が要求されている。原潜阻止と云う政治的目標が、佐世保・横須賀（現地）——全国斗争と云う

全職場一分ストを盛りあげよ!

10・23デモで11月実力阻止の展望を

原潜艦阻止の

職場における実力斗争を

大阪中電労研決議声明

去る10月5日大阪中電通労研は緊急会議を開き、現在、重要な争点となつて

一、原潜艦寄港が意味するもの、東南アジア人民の民族

想することは決定的に反動的である。戦後、うちくだされ、国内に閉ざされた大衆的労働運動は、いまや困窮を越えた連帯をもちたい。進まねば進むことができない。（かかる国際主義の要請は、階級斗争の社会一政治斗争への推移と明確に

④ 原潜斗争は巨大な試練である。日本プロレタリアは、後進諸国人民抑圧に同意することによって自らをいさうそうよく隷属の鎖につなぐか、それとも、革命的の進軍をあきらめ、くだ放す武器をきたえ、同時に諸人民の解放者として歴史に登場するか。国際主義が現実の斗争において発揮される時機が、まさしくいまである。われわれは自足的な民族解放革命を展望することはできない。同時に極東—東南アジア民族解放運動と無関係のところに日本プロレタリア革命を構

⑤ このことは、韓国情勢をわれわれの運動領域に導入することであり、いさうそう明白である。最近の韓国は、その運動の表面の一次的な開かれたことは日本の労働運動の介入こそ不可避である。

⑥ 原潜寄港が急がれるとともに日韓会談の十一月下旬再開が企まれる。朴元淳の人民宣伝用の表面の反日的ポーズ（漁船事件等）、日本商社課税事件等）のたもとで、緊急二千ドル援助が決定した。バンデイト米國務次官補も、会談再開実現につく介入している。韓国内では、学生と云うおりに、民族約統一の破かいと帝制米略の要請論にたいする弾圧が、戒厳令中から進行してきた。言論弾圧法は事実上破産したことができない。

⑦ 原潜阻止斗争は、いま息つくひまもなく、大衆的実力阻止斗争にたかまらねばならない。それは、
● 現地大量動員による実力阻止
● 首都（とくに首相官邸）に対する、始め全国的な政治デモ・ストとして斗わねばならぬ。この両者は不可分であり、いずれが決定的かは、ただ断せざるであらう。さしあたって、問題の所在と切迫を鮮明に全国化し、現地動員を可能とするためには、
10・13京都、10・16全国、10・23全国統一行動が決定

⑧ 学生戦線にとって原潜阻止と云う困難のなかには、試験中と云うよりも、試験後の戦線に求められる。さしあたって、真剣に斗争を追求するものは、ここからこそ戦術の高度化をはからねばならぬ。
● 学生戦線にとつて原潜阻止と云う困難のなかには、試験中と云うよりも、試験後の戦線に求められる。さしあたって、真剣に斗争を追求するものは、ここからこそ戦術の高度化をはからねばならぬ。

6点にわたる決議とは次の事項である、
【何故、我々は原潜艦寄港に反対するか】
一、原潜艦寄港が意味するもの、東南アジア人民の民族解放斗争を圧殺しようとするものであること。東南アジア人民の反帝斗争は、海外進出の野望を持つ日本帝國主義にとつても脅威であり、その意味で日帝は、積極的に米の反革命武力介入に力をかそうとするものである。
更に原潜寄港は、日帝の日韓会談、帝國主義的軍隊の強化、憲法改悪に重大な契機を与えるものである。
二、安全性について政府は、米側の一方的な説明と安全性保障をうのみにして、日本の科学者、日本科学者の声明にあるごとく、何れ放射能その他安全性に関する確固たる保障がないこと。米原潜艦スレッシュャー号の沈没原因はまだ不明であり、その船体がバラバラになって海底に沈んでいることが判明した現在、かかる事故が起らない保障は、なく、我々は、米側の一方的な安全性の保障を認めるとはできない。

針

一、総評は現代、現地動員斗争を呼びかけているが、これだけでは、原潜艦寄港阻止の有効な闘いを展開できないし、各組合同業動員というお定りの日和見主義であり、総評幹部の斗争サポの口実にすぎない。
二、電通労研は一分間ストライキを追求する。一分間ストライキは、一分から五分へ、一時間から一日へ、そして、ゼネストへと、あらゆる組織の妨害を除いて、労働組合へ、中電から大阪地本、中央へと、ストライキ斗争、実力斗争を強化する方向をあくまで追求（二面へつづく）

ソ連派分裂の本質とその展望

ソ連派の共産党からの分裂はスターリニズムの外皮をもつといえ、日本労働者階級の政治的再編の一翼を形成する、我々は厳密な思想批判を通じて、彼等の中から最も優秀な分子を我々の戦列にむかえねばならない。その意味で、彼等との思想闘争はいま焦りの課題をなしている、政治局はそのための具体的方針を決定し、焔火編集部は、それにもとずき今後数回にわたってソ連派批判を連載する。

「プロレタリア国際主義」と「自主・独立」

（一）
日本共産党の内紛と脱落が、又はじまわっている。ここに於て、「プロレタリア国際主義」の「立場」にたつことを主張し、共産党の「自主・独立」論を批判し

（二）
神山茂夫は、雑誌「世界」に於て、「プロレタリア国際主義」の「立場」にたつことを主張し、共産党の「自主・独立」論を批判し

（三）
「自主独立」の日本共産党に「わが祖国」ソ連邦の立場の強要を促すこれら分裂の動向を一層茶番的に示したのは、志賀義雄である。彼の「ミコヤン来日を背景にした大芝居と原水禁で

「部分核停」を除いて政策をもたぬ志賀義雄

（四）
しかしこうしてソ連派分裂でありながら、鈴木市蔵の言説に代表されるようにそれは疑いもなく日本労働者階級の政治的再編の一端

（五）
腐敗と後退をさける道は！
春日一派の教訓を生かせ！

（六）
ニズムのな外皮をもっているとはいえ、戦後20年の過程で、度々となんか演じられた共産党分裂劇と同一の基礎にたつては、ソ連派の官僚にたつては、それ

（七）
「自主独立」の日本共産党に「わが祖国」ソ連邦の立場の強要を促すこれら分裂の動向を一層茶番的に示したのは、志賀義雄である。彼の「ミコヤン来日を背景にした大芝居と原水禁で

（八）
「部分核停」を除いて政策をもたぬ志賀義雄

（九）
腐敗と後退をさける道は！
春日一派の教訓を生かせ！

（十）
ニズムのな外皮をもっているとはいえ、戦後20年の過程で、度々となんか演じられた共産党分裂劇と同一の基礎にたつては、ソ連派の官僚にたつては、それ

（十一）
「自主独立」の日本共産党に「わが祖国」ソ連邦の立場の強要を促すこれら分裂の動向を一層茶番的に示したのは、志賀義雄である。彼の「ミコヤン来日を背景にした大芝居と原水禁で

（十二）
「部分核停」を除いて政策をもたぬ志賀義雄

我々の道を歩め

（十三）
「部分核停」を除いて政策をもたぬ志賀義雄

（十四）
腐敗と後退をさける道は！
春日一派の教訓を生かせ！

（十五）
ニズムのな外皮をもっているとはいえ、戦後20年の過程で、度々となんか演じられた共産党分裂劇と同一の基礎にたつては、ソ連派の官僚にたつては、それ

（十六）
「自主独立」の日本共産党に「わが祖国」ソ連邦の立場の強要を促すこれら分裂の動向を一層茶番的に示したのは、志賀義雄である。彼の「ミコヤン来日を背景にした大芝居と原水禁で

（十七）
「部分核停」を除いて政策をもたぬ志賀義雄

（十八）
腐敗と後退をさける道は！
春日一派の教訓を生かせ！

（十九）
ニズムのな外皮をもっているとはいえ、戦後20年の過程で、度々となんか演じられた共産党分裂劇と同一の基礎にたつては、ソ連派の官僚にたつては、それ

（二十）
「自主独立」の日本共産党に「わが祖国」ソ連邦の立場の強要を促すこれら分裂の動向を一層茶番的に示したのは、志賀義雄である。彼の「ミコヤン来日を背景にした大芝居と原水禁で

（二十一）
「部分核停」を除いて政策をもたぬ志賀義雄

（二十二）
腐敗と後退をさける道は！
春日一派の教訓を生かせ！

東南ア解放と世界革命

(2)

東南ア人民の解放は先進国

労働者の階級斗争にかかっている

民族解放戦線の困難とは、独占は、いかなる点でも、連続的に社会主義革命の階級斗争の後退の直に接する点である。しかし、だからといって前者の観点のみに立脚してよいという事はなく、国際的階級斗争の新たな波と結合しなければならぬこと。これが我々の基本的観点である。周辺革命論は、先進国階級斗争への絶望に、その現実的基礎をもつた。しかし、帝国主義の最も弱い環植民地における民族解放は、帝国主義を「自爆」させるかどうかは別にして、おとし入れるであろう。だが、この資本主義危機はプロレタリアートにとっての危機でもある。この危機を社会主義へ転化することに、これは一般論としてではなく、まさに、世界プロレタリアの当面する直接の任務となっている。中間地帯論はこの世界的階級斗争の任務をアメリカからの民族の解放において、しかし、仏、独、日、E.T.C. 者階級の指導のもとに達成

シアを拠点とするイギリスの野望は、直接的軍事介入を通じて、東南アにおける軍事力を飛躍的に強化して、こうした事態の進行に對して、フルシチョフは何らなすべくもなす無力である。トンキン湾事件において、国連安保理へのソ連の提訴要請を北ベトナムが拒否したことはその影響力の喪失を端的に物語るものである。

こうした資本主義の危機の前面化における平和共存論の最後の抛り所を、東西貿易の拡大にもとめてい。すなわち「社会主義圏」と資本主義圏の市場の相互解放、生産力市場競争によって資本主義の安定を回復させつつ「社会主義圏」の生産力巨大化によって戦争挑発、冷戦政策E.T.C.を解消せんとする路線である。かくして、彼等は、世界プロレタリアに對しては、上の如き方向へ資本主義を転換させる圧力行動を民族解放斗争へは、「平和的解決」を主張する。トン

キン湾事件における「限定戦争」は、平和共存の均衡が決定的に破れたといえないことを示している。農民の主体的感情は理解できるがその斗争は支持できない」という言葉で語られている。こうした見解は「反帝反スター」という世界観の必然的結核である。帝国主義とスターリン主義の分割支配の一方へ、東南ア「スターリン主義」を位置づけ、同時に打倒の対象と宣言することによって、ことごとく足りとしてのである。東南ア人民の解放斗争は明らかに民族の極度に困難な条件下で長期にわたって、犠牲的、全国的な斗争が展開されるのである。その意義を含め、一切の問題は国際的階級斗争との関係において評価されるべきではない。「スターリン主義」そのものが、階級斗争の敗北、後退の視点から形成されてきたものであり(第一次大戦後ヨーロッパ革命の挫折)、ロシア革命の孤立後のスターリンによる一國社会主義の固定化第二次大戦後革命の敗北の後の毛沢東による周辺革命論)民族解放斗争の困難も、階級斗争の後退の直接的反映である以上、資本主義から社会への過渡における世界的階級斗争によってこそ止揚されねばならぬ対象である。

一〇・三〇全国ゼネストへ向けて
闘いを押し進めよ!

学生戦線からの報告

学生戦線は、原潜艦阻止名の学友が、原潜艦阻止の斗争を、現存極めて困難な断乎たる決意を表明した。闘いの波は、徐々にではあるが進んでいる。十一月の試験期という、学生政治意識の低下する時期にもかかわらず、京都府学連、大坂市大の闘いの決起の呼びかけに応じて、九月十六日、京都府で三百名、大阪で三百名

として組織し十七日、十八日原潜艦阻止全国自治会代表者会議をもって十月三〇日の全国ゼネスト斗争を宣言する予定となっている。オリエンティック・ムードが全国的に蔓延している時、我々の闘いは、いかに困難とはいえ、原潜艦寄港の深いつ軍事的、政治的意味の深さが、日本資本主義の帝国主義発展の歴史的な区分を象徴しており、又、一方で、帝国主義世界の矛盾を東南アシアに於ける危機の深さに集約して表現しているのが故に、一層要請されているのであり、断乎たる闘い

のみに我々の現在の闘いを巨大な波にあげ、日本帝国主義、アメリカ帝国主義の野望に對する決然たる抵抗ののろしとなるであろう。すでに第一に着手されなければならないことは開始された。京都府学連を中心として一七、一八日の全自治会に向けての積極的オルグが開始され、京都大学、同志社大学では、地味ではあるが、着実に、二十三日のストライク斗争へ向けての宣伝活動が続けられている。だが、全国の同志諸君、我々はこの斗争報告を終え

関西労働者協会

大阪労働者学園第二期生募集中

要項

1. 場所 大阪府立労働会館
2. 時間 一月二日―三月二十九日までの毎週、月木、午後六時より九時まで(六カ月をもち一期修了)
3. 聴講料 総合コース一、〇〇〇円(単科コース六〇〇円)
4. 入学金 六〇〇円
5. 開校式 十月二日(木)六時より大阪府立労働会館
6. 定員 六〇名(申込順)(十月二日まで受付)
7. 申込方法 下記用紙に記入の上、左のどちらかへ郵送又は持参して下さい。
(1) 大阪市北区高田町八五 曾根崎書店(三六二)六七二一
(2) 京都市左京区吉田本町一七八八一一 京都大学経済学部平井研究室内 阪上孝

今後の前進のために

私たちは決して労働者学。國で知識の切り売りを買ったのではない。私達労働者階級は、大阪で二期生のエネルギーの普通化のたに運動の素材になるものとする組織活動を始めた。私達は、形の上でなく、教師と生徒と有機的結合や徹底化に自分の頭で考えてみる習慣を身につけていく中で肉づけされてゆかなければならない。そして各講師のアクセントの置き方に相異はあつたが、講義を一貫して流れた歴史観、世界観を個人の自覚の上に階級生成への足がかりとしてひきうけなければならぬ。私達の参加の仕方や賭け方はそれぞれであつても、現状況の中で運動として有効性をもちたすために努力することは、一人一人の内実と必ず重なるのである。私達は、受講の限りでは決して学び得ない。新しい今度私達は國營の自動車専用道こそ私たちが自分の手もつて運動の中で理論づけた、私達自身の真の科学的真理を獲得する。私達は真の科学的真理を己批判の繰り返しの中で生じた、集団的に結合された実践を唯一の武器として自ら道路を切り開いていく。私たちはこつとて真実大切なことは、客観的、分析的態度によつて自己の外に発見したくこうすればあはれるにちがいない。これを理論づけていくことではなくて、正しく真の科学的真理は得られるべきものとしてこの現実社会の中で、こつとすればあはれるにちがいない。具体的な試してみたい。自分にはたつた今、何を、どれたけ成し得るかということである。大阪労働者学園 一期会一同

10月22日 開講